



楓の誉

R4.12.22(第9号)
文責：瀧上 佳宏

本校の「未来予想図」は？

後期前半も明日で終了です。十一月・十二月は、本校でも新型コロナの陽性者が多数出てしまい、教育活動の様々な場面に影響が出てしまいました。オンライン授業等で、生徒の学習はできる限り保障するように努めては参りましたが、このような「非常」事態が「日常」事態になれば、それは「異常」事態です。令和五年こそ、コロナ終息の年になることを、皆様とともに祈りたいと思っています。

ところで、私(校長)は、最長でも令和五年度(開校三年目)までしか、今の職に留まることはできません。しかし、最近、私の専らの関心事は、概ね開校十周年を迎えた頃の、この合志楓の森中学校の「未来予想図」です。

私は県教育庁(本庁)勤務の一年目、義務教育課の教育振興班という部署で、生徒指導上の諸問題を集約する業務を担当していました。つまり、県内で起きた児童生徒の問題行動(いわゆる非行)の情報は、全て私の所へ集まっています。もちろん内容は明かせませんが、その時に得た知見をもとに、本校の未来を大胆予想してみると、次の通りです。

(○○○○○○ならば)本校は、五・六年目頃から学校の「荒れ」が顕在化し始め、八〇十年目頃に「荒れ」がピークに達する

もしその通りになったら、「予想が当たった」と喜んでいる場合ではありませんね。予想が当たらないよう、何をすることが大事になっ

てきます。(○○○○○○ならば)はここに書きませんので、読者の皆様で各自お考えいただければ幸いです。

一般に、「荒れ」が顕在化する学校では、その核となって問題行動を繰り返す生徒がいるものです。しかしその一方で、問題行動を繰り返す生徒はいても、総じて学校は落ち着いており、学力も高く、部活動等でも成績を残している学校もあります。その違いは一体何なのでしょう？ これも当時の知見からですが、「荒れ」が顕在化してしまう学校の特徴として、私は次の二点をとらえています。

① 様々な問題が、全て「あの子(問題行動を繰り返す生徒)たちのせい」に単純化されている。

② 「あの子たちよりマシ」あるいは「あの子たちもしている」と正当化(言い訳)し、軽微な問題や違反が日常化する。

言い換えるなら、他者への「責任転嫁」や他者との「序列」ばかりが気になり、「内省」がないということでしょう。反対に、他者がどうのこうのではなく、自分はどうしたいのか、自分はどうなりたいのか、つまり本校の学校目標にもあるように、自らの「夢や誇り」が、生徒たちの判断や行動の原動力となっている学校では、「荒れ」は顕在化しにくいものです。

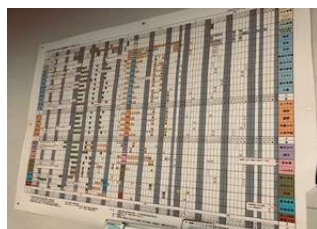
今後、生徒はもちろん、異動により教職員も入れ替わります。当然、保護者の世代(意識)も変化するでしょう。本校の「落ち着き」が、努力なしに得られるものと勘違いする人々が多数派になった時、本校も瞬く間に「荒れ」の時代を迎えることでしょう。そうならないよう、させないよう、私は何をすべきかを考える毎日です。ただし、「未来予想図」に登場することになる現小学生が、同じ校舎の中にいることは、アドバンテージなのかもしれません。

いよいよ本番！ 進路選択

これから二月後半にかけ、いよいよ三年生は、進路選択(高校等入試)の本番の時期を迎えます。既に生徒一名が入試を終え、見事、合格(進路決定)第一号となりました。幸先の良いスタートを切れて、嬉しい限りです。

おそらく私立高校への就学支援金制度が影響しているものと思われませんが、熊本県でも近年、入試の状況がかなり変化していると感じます。そのため、一月十七日(火)、十八日(水)の私立高校の特待・奨学・推薦・専願入試が、

一つ目の大きな山と言えるでしょう。もう一ヶ月もありませんが、新型コロナの感染防止も含め、万全の対策をして入試に臨んでほしいと思っています。



職員室掲示の入試カレンダー

進路選択は、受験生がそれぞれに行うことではあります。そこへ向けた学年・学級の雰囲気はとても大事です。新設校初の進路選択へ立ち向かう初代卒業生の仲間たちです。お互いへの配慮や思いやりを持ちつつ、みんなで頑張り、乗り越えようという雰囲気を作ってくれたらいいと思います。

良いお年をお迎えください

平素より本校ホームページのご閲覧、誠にありがとうございます。今後魅力あるページ作りに努めますので、どうぞよろしくお願ひします。皆様、良いお年をお迎えください。



学校HPのQRコード